福岡県 グループホーム
こすも　ユニット1

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
１．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの利用者と家族の尊厳や願いを最大限尊重し、余生を楽しめる生きがいを求め、残された機能を生かしながら暮らせる「あるがままの生き方」こすも独自の理念を念頭に置き地域の方々と交流し、地域密着を推進していくよう理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長や責任者が職員のオリエンテーションや新人研修のほか、勉強会などを利用して理念や方針について話し合う場を持ったり、日々のケアの場面や行事その他の取り組みの中で職員へ示して理念の実践に向けて取り組んでいる。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的に施設だよりを発行し、ホームの取り組みや近況報告をしている。ほかに、3ヶ月に1回の家族会、2ヶ月に１回の運営推進委員会を開きホームの理念や方針を伝えている。		
２．地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の公園への散策途中に、他の散歩中の通りすがりの方へも挨拶や声かけをしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館の敬老会、小学校の行事など積極的に参加している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室、ヨガ教室、音楽コンサートなどの取り組みを行っている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、改善計画の立案を行い、ほぼできている。	○	常に評価と現実を対比しながら後退しないよう取り組んで行きたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、話し合いを通して会議メンバーから素直な意見を貰いサービスの向上に具体的に生かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームの中だけではなく、市内全体の認知症ケアの向上を目指して常に協働している。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会を開催し、学ぶ機会を持っているが、まだ知識としてできていない所もあるが、状況に応じて専門家に相談して対処している。	○	専門家を招いて勉強会を行いたい。
11	―	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関適法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	言葉使い等、スタッフ間でお互いの行動を確認し合い、虐待防止に努めている。		
４．理念を実践するための体制					
12	―	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をかけ説明し、理解・納得をはかり、その後も随時補足説明や相談に応じている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
13	―	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まごころ相談員を受け入れ、入居者が気軽に会話し意見を言える機会を設けている。　相談員の報告に基づき改善するところを見つけた場合はスタッフ会議で検討し反映している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	随時または定期的に来所時及び電話にて報告している。また、こすもだよりを毎月の請求書と一緒に添付し、近況報告及び今後の行事予定を知らせている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、家族同士の意見交換の場を設けている。家族から意見を頂いた場合は話し合いを設け改善する。また、意見箱を設置し言い難い事は意見箱で対応している。		
16	―	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	幹部会議、スタッフ会議を通じて職員の意見や提案を聞く場を設けている。また、日常的に職員間や職員と管理者のコミュニケーションの機会を重視している。		
17	―	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者に合わせたシフト作りをしている。すべての職員が夜勤を経験することで利用者の24時間のトータル的な把握がスタッフ全員できている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフは2ユニット体制になっているが、他方のユニットより必要に応じてフォローする場面を多く作っているので、入居者のストレス・ダメージは、職員の移動があっても少ないように努めている。	○	スタッフが退職した時の新しいスタッフと入居者のスムーズな関係を構築する為の努力は今後も常に配慮する。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	常に人権の尊重や公平性を意識して採用に当たっている。また、個々の特徴や個性にも目を向け、介護の持つ専門性や人と人との関係など考慮している。社会参加・自己実現を図れるような機会作りを重視している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会・セミナー等積極的に参加し、入居者の人格を尊重する取り組みを行っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や実践者研修など随時状況応じた研修トレーニングを受ける機会を設けている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業者同士の意見交換や勉強会等外部との交流を図っている。県のグループホーム連絡会を利用して相互訪問と意見交換を行いサービス向上に努めている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	上司、管理者とのコミュニケーションは取れている、ストレスの緩和は、コミュニケーションを通じてみんなで分散できるように心掛けている。	○	職員旅行、食事会を企画し、ストレス発散を図っている。今後も、コミュニケーションを大切にして行きたい。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回職員の実績を点検し把握している。ホームの運営への積極的な参加、個々の特徴に応じた役割分担、学会発表や先進のグループホームへの研修など様々な形で動機付けを行っている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	体験利用を通して本人との時間を作り、本人の気持ちや不安・意向など引き出し向き合えるようにしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階で家族との話し合いの機会を多く持ち、認知症について理解する機会を作ったり、家族の気持ちや不安・意向を十分に聞く。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談担当部門のソーシャルワーカーとホーム長・管理者・ユニット担当者が話し合いを行い利用者本人や家族のニーズに応じたサービス提供を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と協力し合い、馴染みの場所となるよう対応しながら、利用者がスムーズに安心して入居できるよう工夫している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の暮らしの場面や、入居者のアクティビティの場面で、入居者が感情を表現しやすいような場面作りや声かけを行っている。入居者の方から学んだことやしてもらった事は心から感謝の言葉として伝えている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居前よりコミュニケーションをとり、入居後も、日々の生活等をお知らせすることで情報を共有している。家族からの意見も記録に残し、スタッフ間で共有できるようにしている。	○	入居者と家族同士の話す機会、また、スタッフと家族の話す機会を増やして行きたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	外部	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会は勿論、年間行事にも家族の参加を促し、より良い関係構築に努力している。	○	こすもだよりでの近況報告はこれからも更に充実させていきたい。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族への年賀状の送付や友人が来られることを歓迎し、必要に応じて馴染みの美容院へ行けるよう配慮している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者同士の声かけや助け合い等、共に支え合いが定着している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	亡くなられた方の墓参りや法事など関係を断ち切らない付き合いをしている。		
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 **１．一人ひとりの把握**					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活史シートなどを活用し、生活の継続に努め、対話の中から情報を記録におとし、共有、実践し家族にも相談している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活史と質問リストを渡し、暮らしの把握に努めている。また、入居後もこの方の生活支援の把握に努めている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居前の生活リズムが継続できるよう支援を行っている。また、入居後もその方の出来ない事ではなく出来る事に視点を置き支援している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の状況変化が見られるたびにスタッフで最善策を検討し介護計画を立てている。	○	本人に合わせたケアプランを適宜立案し実行することのアイデアを高めたい。
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは勿論、変化が見られる場合は現状に即した計画に変更している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	社内の通所介護との連携をとり、本人や家族の要望に応じて最善の提案と支援をしている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の生活安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ている。特に民生委員やボランティアの訪問には力を入れている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票 （網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況に応じて訪問看護等、医師と相談しながら連携を図る。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	問題が発生すると予見される場合は事前に地域包括センターと協議して未然に防止できるように努めている。又、本人の意向がある場合は都度協議する。	○	グループホームの利用者は程度の差はあっても判断力が低下状態にあり権利擁護や成年後見制度の利用など、地域包括支援センターとの連携を重視している。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診をし、密に医師との連絡をはかり、状況報告をすることで入居者の状態を主治医・スタッフ・家族も理解している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的受診の中で状況の変化を専門医より治療の方法や生活場面での工夫、アドバイスを受けて支援を行っている。	○	物忘れ病院（大牟田みさき病院）で受診しアドバイスを受けることで、よりよい支援に取り組んでいる。
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の状態は看護職員が常に把握しており、係りつけ医との連携をとることで毎月の健康管理を支援している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院手続きを家族と共に立会い、看護師との情報提供を行うことは勿論、スタッフが時間の許す範囲で見舞いに行っている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	見取りを含めあらゆる可能性を本人や家族の意向を大切にしている。主治医・スタッフ・家族で方針を確認し、意識統一している。	○	見取りに対して医療経験の無いスタッフの為に勉強会を行っている。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の平穏な生活を過ごす為に事業所でできることを再確認し、できない部分をどう対処するか話し合い、手配と準備をしている。	○	急変に備えて家族との緊急連絡体制を再度確認する。（家族と連絡が取れなかった前例がある）
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	急に移るのではなく、一定の期間を設けて本人の生活継続がスムーズに移行できるよう支援している。		
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの個性を尊重し、個人に適した声かけを心がけ、プライドを守ることに気をつけている。介護に必要ない個人のプライバシーに関することは記録として残さない配慮をしている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常的な声かけやコミュニケーションの言葉の中に隠れている表現も見極め支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者の自由に自分のペースを保ちながら暮らせるような支援を行っている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	―	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が行きつけの理美容院へ行くことを望む場合、可能な限り要望を満たす努力をしている。洋服は季節に合わせて家族にお気に入りを家より持ってきていただき、TPOに合わせておしゃれを楽しんでいただいている。		化粧は自己表現と身だしなみと言うことで見守りにて対応している。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の残された能力に応じて調理の手伝いをしてもらっている。自家農園で取れた作物をみんなで収穫する。また、収穫物の保存方法を学び会話しながら楽しんでいる。	○	食べたいメニューをアンケートして楽しんでいる。
57	―	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者が自宅にいるとき同様に、可能な限り馴染みの嗜好品を楽しめるよう日常生活に取り入れて支援を行っている。	○	適量を守り、事故防止に注意する。
58	―	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツを出来る限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴が出来るよう支援している。（時間帯、長さ、回数など）		
60	―	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、一日の生活リズム作りを通した安眠策をとっている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみ事や自分の出番を見出せるよう、場面作りなどの支援を行っている。		
62	―	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が安心できる額を本人の希望と力を鑑みて所持し使えるよう配慮している。		入居者の能力や希望にそって、自分の財布を（小銭）管理してもらっている。 雑貨店では、一人ひとり支払ってもらうよう支援している。
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は入居者一人ひとりが自分で決めることや、希望したりすることを大切にし、それを促す取り組みを日常的に行っている。	○	家族を交えて花見等の行事を定期的に行っている。
64	―	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望がある場合は可能な場所へは外出の支援をしている。その他、花見やひな祭り等気持ちが明るくなるような行事を企画し、楽しめる場を提供している。		
65	―	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人、知人の手紙、電話を家族にも依頼すると共に歓迎している。 年賀状や暑中見舞いのハガキは楽しみながら出している。		
66	―	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面会時間は規制していない、訪問は自由に開放している。友人の訪問は特に歓迎し、再来をお願いしている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（４）安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないと言う事を、全ての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関及びその他すべての部署に施錠はしない、開放的である。	○	夜間は不審者予防の為施錠している。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の状況を確認し、ケアを行っている。夜間の見回りはプライバシーに配慮しつつ安全確認を実践している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物などの注意の必要な物品については、保管場所、管理方法など明確に取り決めそのとおり実行している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生しそうな場面がある場合、ヒヤリハットの検討で事故を未然に防ぐ方法を話し合っている。	○	注意が必要な人に対してカンファレンスを行う。また、どうすれば危険を回避できるかの勉強会をスタッフ会議で検討している。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成している。 救急救命法の学習を消防署より講師を招いて行ったこともある。 応急手当を看護師を講師として訓練している。	○	急変や事故を想定して対処方法を確認することを常に心掛けている。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年２回実施している。地元住民との密接な関係を築くために、様々な交流の行事を取り入れている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時にリスクの説明はしているが、日々の生活で身体機能低下による新たなリスクが想定されるので、随時家族への報告・相談を行っている。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の生活の中で通常と違った変化が見られる時は、勤務中のスタッフは情報を共有することは勿論、状況を判断して主治医に対応を相談している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者の健康状態を把握して、内服薬及び塗り薬の効用を理解している。また、医師の指示通り服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食事の提供に心がけている。また、排便チェック表により体調管理に努めている。	○	バナナやヨーグルトは予防の為、毎日使用している。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨き、入れ歯の手入れ、うがいなどの支援、出血や口腔内のチェックなどを行っている。	○	自力で歯磨きができない方には、口腔清潔が保てるよう支援を行っている。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に栄養バランスの取れたメニューを組んでもらっている。また、水分補給は1日に1000ml～1500ml補給できるよう工夫している。	○	十分な水分補給ができない、または、水分補給を嫌う方もいるので医師と相談しながら対処していきたい。
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを作成している。 感染症の流行や対応策について全職員、繰返し学ぶ機会をつくっている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、新鮮で安全な食材を購入し、提供している。 包丁やまな板など消毒に努めている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
（１）居心地のよい環境づくり					
82	—	○　安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの入口に、ホームのシンボルマーク（なす）の看板を建て、外には山羊が出迎え、玄関では開閉時、さわやかな鳥の鳴き声のチャイムを設置している。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を壊さない配慮で、トイレ、部屋の表示を手作りでしている。 壁は季節に合わせて機能訓練を兼ねた切り絵等を雰囲気が壊れない範囲で飾っている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人を楽しみたい入居者にはその空間を、気の合った仲間で寛ぎたい入居者には仲間同士で過ごせる居場所を入居者の気持ちになって配置を工夫している。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、生活用品、装飾品など持ち込まれ、安心して過ごせる工夫をしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は適宜天候を考慮して行っている。冷暖房の温度調節は冷やし過ぎや暖め過ぎない様、職員が居室に入って適切に行っている。	○	居室は換気をマメに行ってもにおいの発生があるため、オゾン器を使用して清潔を保っている。
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーと手すりの設置を施している。また、廊下を中心に余分なものを置かないことで転倒防止と転倒しても怪我しない工夫をしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各個室には利用者の顔写真を表示している、お風呂は暖かさを演出する温泉暖簾をつけている、トイレは大き目の表示をしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りは芝生を敷き詰め、上靴でそのまま出ることができる。また、ベンチを配置して気候がいい時は外で活動できる。家庭菜園では、季節の野菜の無農薬栽培で果物や野菜が採れ食卓をにぎわしている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　　目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目				
90	－	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	－	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	－	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
93	－	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
94	－	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
95	－	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
96	－	○利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	外部	項　　　目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように
				②数日に1回程度
				③たまに
				④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
100	—	○職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

ホームの理念を念頭において、笑顔で利用者が快適な生活ができるよう支援を行っている。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
１．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者や家族の尊厳や希望を最大限に尊重し、良質且つ健全な運営を推進するために、利用者から学ぶ姿勢を持ち、ケアの喜びを育む。認知症の方を地域で支える町作りに貢献する。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議を利用して、理念や方針について話し合い、日々のケアの中で職員に示し、理念の実践に取り組んでいる。	○	理念や方針については、更にスタッフ個人が理解を深め実践することで、入居者がより良い日々を過ごせるよう、話し合いを通じて取り組む。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月「こすもだより」を家族向けに発行している。また、地域に向けて、こすもの取り組みや認知症についての情報発信をしている。定期的に家族会や2ヶ月に1回の運営推進会議を行い、理念や方針を常に伝えている。		
２．地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所とは挨拶は勿論、こすもの行事に参加を呼び掛けてきてもらっている。また、頻繁に小学生が来て一緒に遊んだりと日常的な付き合いに努めている。	○	今以上にこすもを知ってもらい、更に様々な方と日常的な付き合いができるよう努めていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民館へ足を運んでいる。また、敬老会などの地域活動には声を掛けてもらい、地域の方との交流を行っている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	研修には、積極的に参加し、学んだ知識を、地域の高齢者が安心して暮らせる町作りに協力している。	○	常に地域の一員としてという気持ちを忘れず、得た知識や経験をもっと地域の人々に発信していきたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の狙いや意義を確認しながら職員全員で話し合い、改善に努めている。また、見出された課題にも話し合いながら実行している。	○	改善に向けて日々努力しているものの十分ではない面もあるため、確実に実行していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２ヶ月に１回運営会議を開催し、こすもの取り組みを報告する中で、いろんなアドバイスを貰い、サービス向上に努めている。委員と入居者家族との交流の場にもなっている。	○	今後も充実した会議内容にし、メンバーからのいろんな意見を参考に入居者が安心して暮らせる住まい作りにしていきたい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームだけではなく、市内全体の認知症ケアの向上を目指して常に協同している。また、市からの視察研修の受け入れや行事などの参加も呼びかけ、日常的に情報の共有を行っている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会は行っているが、まだまだ理解するには不十分なところがある。	○	勉強会や専門家を招き、理解を深めて行きたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	こすもの理念、ケア方針に基づいて個人を尊重したケアにあたっている。虐待について学習し、見過ごされていないか注意を払い、防止に努めている。	○	スタッフ各々が今以上に虐待について理解し、意識できるよう勉強会や話し合う機会を作り防止に努めて行きたい。
４．理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、ホーム長、管理者が本人や家族と共に十分時間をかけて説明し、理解・納得・同意をはかり、その後も随時、補足説明や相談に応じている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
13	―	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で本人の表情や行動から不満や悩みを察し、日々反映している。また、まごころ相談員が定期的にこられ、本人の意見を言いやすい機会を設けている。入居者からの意見はその旨報告してもらい検討して反映させている。	○	利用者を様々な視点から観察し、センター方式を使うなどして本人の意向や不満を引き出し、運営に反映できるよう取り組む。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がこられた時には、近況や預かり金の確認を行っている。遠方の家族には電話で様子を報告している。月１回発行のこすもだよりを請求書と同封して渡し、現状や行事暮らしぶりの写真を掲載して報告している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がこられた時は必ず会話を交わし、その中で家族の意向を察するように努めている。意見箱を設置しており、定期的な家族会では、家族同士が意見を出される機会を設けている。		
16	―	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	幹部会議、合同会議を通じて職員の意見や提案を聞く場を設けている。また、普段から職員と管理者・運営者とのコミュニケーションの機会を重視している。	○	今以上にユニット会議の場を蜜に行い、情報交換ができるよう努めたい。
17	―	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	本人のニーズや生活時間に合わせて出勤の時間調整を行っている。行事の際は入居者が行事に参加できるような勤務体制をとっている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ職員の異動を最小限に抑えているが、急な応援や異動があることに備えて、日頃から情報交換や交流を図り、馴染みの関係作りがスムーズに行われるよう配慮している。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	常に人権の尊重や公平性を意識して採用に当たっている。また、個性や特長にも目を向け、介護の持つ専門性や人間関係を考慮している。職員がただ働くばかりではなく、社会参加や自己現実を図れるような機会作りや動機付けを重視している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	全スタッフに研修や講演がある際は広報し、参加を募っている。また、全職員が共有できるよう研修内容の報告をする機会を作っている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職の心構えを学ぶため、新人研修には参加してもらい、その後は実践しながら指導育成を行っている。	○	組織的・段階的・計画的な職員育成は今後の課題である。また、認知症ケアに関する教育にも力を入れて行きたい。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所同士の意見交換や勉強会等で外部との交流を図っている。また、認知症ケア研究会活動を通じてネットワーク作りを行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	旅行や食事会等の親睦会を行い、気兼ねなくコミュニケーションを取れる場を作っている。	○	質の高い認知症ケアを求めていく中で、介護者へのストレスは大きいものになっている。職員にゆとりのある環境整備をしていきたい。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	普段から同じフロアで生活している中で、個々の特徴や正確に応じた役割分担、学会発表や研修など様々な形で動機付けを行っている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と向き合う時間を多く持ち本人の気持ちや不安、意向等を引き出す。	○	職員全員が本人とのより良い関係を築こうとする意識を高め、本人を受け止められるよう努めたい。
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の段階で家族との話し合いの機会を多く持ち、家族の気持ちや不安・意向を十分に聞き利用者宅への訪問も行っている。また、認知症について理解する機会を作っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム長、計画作成者、管理者、ユニット担当者が話し合いを行い、できることは速やかに実行している。また、必要に応じてサービスの提供を行っている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当ホームへ見学に来てもらったり、利用者宅や入所先への訪問を行いかをを覚えて安心してもらい、信頼を深めている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ空間、同じ時間を共に過ごす中で、一緒に泣いたり笑ったりして、共感しあっている。また、時には相談し人生の先輩として尊敬し、助言を貰い学ばせていただいている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
30	―	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人に対する思いを大切にし、一緒に学び、一緒に喜び日々の暮らしの支援を行っていくよう努めている。	○	家族の思いを少しでも汲み取れるよう会話を深めて行きたい。職員に介護をゆだねきりにならないよう家族にも教えてもらう気持ちで一緒に支えて行きたい。
31	―	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	不穏や元気のないとき、家族の協力は必要不可欠であると説明し、本人の思いや家族の負担を考慮しながら協力してもらっている。面会時は家族とのいい時間を持てるよう配慮している。		
32	―	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や物に対し積極的に取り入れるよう努めている。行事がある時は、馴染みの人を招いたり、馴染みの場所への外出を可能な限り行っている。	○	入居が長くなるにつれて疎遠になったり意識も薄くなってしまわないよう馴染みの人や場所・物を知る努力が必要であり、常にアプローチをしていくよう心掛けたい。
33	―	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者同士の関係を認識した上で楽しく過ごせるよう支援している。また、食事や団欒時の配置など配慮したり、孤立しがちな方には常に声かけをしている。		
34	―	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所した入居者や家族にも家族会や行事の案内をし、引き続きの関係を保っている。		
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 **１．一人ひとりの把握**					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活の中で、思いや希望を見逃さず把握しその時その時実現できるよう努めている。また、本人の安全を考え無理強いしないよう心掛けている。	○	コミュニケーションを今以上に多くとり、本人の表情や会話の一言を大切にし、把握できるよう努めたい。また、可能な限り実現してストレスをためないようにしたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人より、生活歴・人生歴を伺い、今までの生活がグループホームでも継続できるよう努めている。	○	入居時の情報把握が十分なものといえないため、入居後も時間をかけ本人や家族からの情報収集に努めたい。
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録やスタッフ間での情報交換を行う中で把握に努めている。また、一人一人が有する力を発揮できるような場面つくりに努めている。	○	スタッフが観察力を養い、本人の生活リズムや、有する力の把握ができるように努めている。
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の願いや希望は勿論のこと、主治医や専門医の意見も参考に本人主体の暮らしに反映した介護計画の作成をしている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	３ヶ月に1回の見直し、評価を行っている。変化が生じた時には、本人や家族と話し合い、臨機応変に計画を作成しなおすよう心掛けている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録されている。しかし、より良いケアに向けての気付きや工夫はしているが記録は少なく、プランへの見直しに活かされていない部分がある。	○	日々の記録の焦点が漠然としてる、介護計画の実践結果としての記録が少ない為今以上に記録の勉強や必要性を身に付けたい。
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、医療処置を受けながらの生活の維持に努めている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	―	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	グループホームの行事への地域ボランティアの参加、運営推進会議、小学生の訪問など、認知症を理解して預けるよう連携しながら活動を行っている。		
43	―	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の状況に応じて訪問看護等、医師と相談しながら連携を図る。		
44	―	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者個々の権利擁護を重視した支援に努めている。また、解決困難な状況の時には、地域包括支援センターと協議しながら本人本位の支援に当たっている。	○	解決困難なときには、事業者だけで抱え込まず、地域包括支援センターと連携を図り、今後のケア対策につなげて行けるようにしたい。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医や緊急時の希望を確認し、本人や家族が希望するかかりつけ医を最優先している。また、家族の意向や状況に応じて受診を行っている。		
46	―	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族の意向や状況に応じて、認知症専門医へ受信している。適切な指示や助言の中で信頼関係を築きながら継続的な個別支援に努めている。		
47	―	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者の状態は看護職員が常に把握しており、かかりつけ医との連携をとることで毎月の健康管理を支援している。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院手続きを家族と共に立会い、看護師との情報提供を行うことは勿論、スタッフが時間の許す範囲で見舞いに行っている。		
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時点で重度化や看取り支援の説明をし、本人・家族の希望を聞いておく。その時が来た場合、確認書を交わしながら、主治医や家族と繰り返し話し合い、全員の方針を共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人と家族の気持ちを最大限に尊重し、何処までできるのか主治医とも連携を図りながらチームで支援に取り組んでいる。	○	看取り支援を受け入れるようになり、まだまだ経験も浅く、チームの連携、職員の力量を高められるよう努めて行きたい。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移られた時には、情報提供してもらい、馴染みの物品を持ち込んだりして、最小限のダメージにおさえ、継続してサポートできるよう努めている。		
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 １．その人らしい暮らしの支援 （１）一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の尊厳を大前提とし、目立たずさりげない言葉掛け、対応に配慮しているが、できていない分もあるように思う。	○	馴れ合いの関係になってしまい、本人を傷つけたり、不快な気持ちにさせていないか、本人の立場になって対応できるように努めたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段の会話やレクリエーションの中から本人の希望や関心事、嗜好を見極めて、本人に決めてもらう。また、選択の余地を残し体験してもらう取り組みをしている。	○	日々の馴染みの関係で支援した気にならないよう、常に新しい視点で働きかけ、その人らしい生活ができるよう取り組んで行きたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人、その日の体調を思い、気持ちを最優先して支援しているが、スタッフ主導でケアを行っている時がある。	○	共同生活だからという考えを取り除き、個々の生活と意識を変えて行きたい。
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	―	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の能力や興味に合わせて、服を選んでもらったり、化粧をしたりして、必要時に声かけや見守り手直しを行っているがまだ十分でないところもある。また、家族の協力を得て、理美容院への外出も行っている。	○	身だしなみを本人の個性や自己表現と捉えてメリハリのある生活を送ることができるよう支援していきたい。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の力や好み、その時の意思や気持ちに合わせて盛り付け・片付け・台拭きをしていただいている。また、個々の状態に合わせ調理方法を工夫したり、量を調節し職員も一緒に楽しい食事を支援している。		
57	―	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医や看護師と話し合い、本人の体調を見ながらお酒を楽しく飲んでもらっている。また、一人ひとりに随時嗜好を尋ねおやつ作りに反映させている。		
58	―	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表の活用、トイレでの排泄に努めている。また、失敗される方には排泄パターンを把握して誘導している。更に、プライバシーに配慮し速やかに対応している。	○	一人一人のサインを職員全員が把握し、さりげない支援をしていきたい。排泄後の清潔や爽快感を高めるよう支援していきたい。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家では一番風呂だった・暑い風呂が好き・男性職員の介助はいや等と言う本人さんの希望や習慣に応じた入浴支援をしている。入浴できなかった方には清拭をし、着替えをしている。	○	入浴拒否がある方には、声かけを工夫等をし入浴支援を職員統一して取り組んで行きたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の睡眠パターンを把握し、日中でも個別の疲れ方を考慮し、休息を取り入れている。不眠の方には、生活リズムを見直し、総合的に支援している。		
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の興味や好みを把握し、編み物や縫裁・食事の手伝い・掃除の手伝い・水やりなど気晴らしになるよう支援している。	○	本人のための役割作りが苦にならないよう自らも興味を持ちたい。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、手持ちの財布から支払ってもらったり、ご家族よりお小遣いを預かり、いつでも好きな時に、欲しいものを購入できるよう支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園へ散歩に行ったり、買い物やドライブなど、外出を楽しみにしてらっしゃる方が沢山おられるので、出来るだけ要望に沿えられるよう支援している。	○	今以上に、気楽に外出できるよう職員が柔軟に対応し、家族の協力も得て支援していきたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望を知り、家族と連絡しながら調整をして、家族行事や仏事・旅行・外食など出来るだけ家族とも一緒に出掛けられる支援をしている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった場合、すぐ電話が出来るよう配慮している。または要件を賜った場合は速やかに連絡させていただいている。	○	はがきは年賀状程度であるため、手紙なども積極的に書いてもらうよう支援していきたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	入口は常にオープンにしており、気軽に来家できるようにしている。また、居室やリビングでお茶を飲みながらや食事をしながらゆっくりとした空間を支援している。また、時にはさりげなく間を持つような配慮も心掛けている。		
（４）安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念や方針を通じて、身体拘束をしないケアを実践している。また、スピーチロック、薬での拘束になっていないか十分に話し合いながら取り組んでいる。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	本人の行動を把握し、センサーやスタッフ同士の連携で所在の確認に努め、鍵はせず自由に過ごして頂いている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室やトイレは個人のスペースという認識を持ち、日頃から安全の確認をしている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を—律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物（包丁・洗剤）はマニュアルに沿って管理・使用している。その他のものは、一人一人に合わせた設置・管理を行っている。	○	その人に起こりうるリスクを予測して対応していきたい。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告を活用して対策に努めている。また、緊急時のマニュアルを作成しており、定期的に確認している。	○	いかなる場合においても、事故に繋がることを意識してケアにあたりたい。緊急時マニュアルも勉強会を通じて今後も身につけて行きたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
72	―	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急の研修へ参加したり、急変時の対応ﾏﾆｭｱﾙや勉強会で学び、事故に備えている。	○	全スタッフが落ち着いて対応できるよう定期的に学習する機会を設けて行きたい。
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災をはじめ、災害を想定した訓練を行い、安全に避難できる方法を会得している。	○	地域の方の協力体制を更に強め、万一に備えておきたい。
74	―	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居者一人一人に起こりうるリスクについて職員も共通に認識し、家族にも十分説明を行い、本人にとってより良い生活が出来るよう一緒に考えている。	○	認知症の進行やその時の体調や気分によってもリスクが変わる為、その都度、リスクに対応できるよう話し合い、共通認識を持っておきたい。
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	―	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックと共に、日々の様々と違うことに早く気付き、ホーム長・看護師・医師に報告し、迅足に対応できるように心掛けている。	○	日頃の様子を把握し、異変に早く気付けるような観察力、また、迅速な対応をスタッフ全員養って行けるように努めたい。
76	―	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての用法・用量、副作用については、薬情報をファイリングしており確認できるようにしている。また、服薬の変更については申し送りにて報告している。	○	時折、薬が抜けていたりすることがあるため、再確認するように努めて行きたい。副作用の観察も行い、理解を深めて行きたい。
77	―	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	全員の排泄パターンを把握し確認できているわけではないので、自立している人の対応が遅れる場合がある。便秘については担当医に相談し、薬や食事・運動などを本人に合わせて行っている。	○	便秘が及ぼす身体への影響を学び、危機感を持って対応把握していきたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
78	―	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔内ケアは実践しているが、入居者の中には、アプローチが難しく十分に対応できないケースもある。そこで、持てる力に合わせ、自分で磨ける方は自分で行ってもらっている。	○	職員も口腔内ケアの必要性を学び、成功例をもとにアプローチの仕方を共有し個々に応じた支援に努めたい。また、口腔内ケアの爽快感を本人に感じてほしい。
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理栄養士が献立をたて、栄養バランスや見た目の色彩にも配慮している。一人ひとりの食事量を考えたり、自分で水分摂取できない方への配慮もしている。	○	栄養バランスは勿論、本人の好みも重視した食事の提供をしていきたい。また、本人の体調も考えて、その時々に応じた調理ができるようになりたい。
80	―	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルがあり、流行時には感染対策委員会からの対応・予防法に従って行っている。手洗いやうがいの励行やインフルエンザの予防摂取に努めている。	○	スタッフが感染源にならないよう、予防に心掛けたい。また、定期的なマニュアルの確認をしていきたい。
81	―	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防マニュアルに従って、食中毒の発生予防に努めている。また、常に調理用具の消毒や食品の管理を徹底している。	○	食中毒予防について学習し、発生予防に努めたい。
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （１）居心地のよい環境づくり					
82	―	○　安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関やリビングには季節の花を飾ったり、明るい家庭的な雰囲気作りをしている。玄関にはセンサーをつけ自由に出入りできるようにしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには家庭的なテーブルやソファーを設置し、花や絵を飾り日差しよけのスクリーンを付け、不快にならないよう配慮している。	○	テレビなどが漫然とついており、その音声が不快にならない様、利用されていない時はこまめに消す様心掛けて行きたい。

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　　　目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
84	―	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集まりやすいリビング作りを心掛けており、その人の落ち着く場所を工夫している。		
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みの時計などを持参している。アルバムなど人生史や生活習慣を大切にしたその人らしい居室作りをしている。	○	まだ居室作りが不十分な部屋もあり、家族と相談しながら工夫していきたい。
86	―	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	オゾン器を使用し、消臭に努めている。また、換気もこまめに行い、一人ひとりに合った温度調節をしている。	○	利用者が不快なく過ごせるよう、ムラのない温度調整に努めたい。
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	―	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	上部の小窓からひざしが入り眩しい時がある。声かけや誘導して席の位置を代わっていただき対応している。	○	小窓にシートを貼り、ソファーの位置を季節によってかえる工夫をしている。
88	―	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	その人の力、認知度を把握し、トイレや居室に表示したり、混乱や失敗を予防するよう意識している。	○	混乱や失敗の原因になるものを把握し、その都度検討して対応していきたい。
89	―	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダはないが、すぐ行ける庭に畑を作っており、収穫の際などは作業を手伝い楽しい時を過ごされている。		

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項　目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ｖ　サービスの成果に関する項目				
90	―	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	―	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	―	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
93	―	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
94	―	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
95	―	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
96	―	○利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

福岡県　グループホーム
こすも　ユニット２

地域密着型サービス外部評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	―	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
98	―	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように
			○	②数日に1回程度
				③たまに
				④ほとんどない
99	―	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
100	―	○職員は、活き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
101	―	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
102	―	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

ケア方針を基に、入居者一人ひとりの生活を支援し、家族とともに十分コミュニケーションが取れている。